

工藤光一先生 研究業績

I. 著書

1. 『近代フランス農村世界の政治文化——噂・蜂起・祝祭』 岩波書店, 2015.

II. 編纂書

1. (福井憲彦・林田伸一と共編) 『二宮宏之著作集1 全体を見る眼と歴史学』 岩波書店, 2011.
2. (福井憲彦・林田伸一と共編) 『二宮宏之著作集2 深層のフランス』 岩波書店, 2011.
3. (福井憲彦・林田伸一と共編) 『二宮宏之著作集3 ソシアビリテと権力の社会史』 岩波書店, 2011.
(同書では「解説」(pp. 417-436)も執筆)
4. (福井憲彦・林田伸一と共編) 『二宮宏之著作集4 戦後歴史学と社会史』 岩波書店, 2011.
5. (福井憲彦・林田伸一と共編) 『二宮宏之著作集5 歴史家のメチエ』 岩波書店, 2011.

III. 論文

1. (研究ノート) 「移行期における民衆の「ソシアビリテ」——アンシャン・レジーム末期のバス＝プロヴァンス地方農村社会——」『社会史研究』8号, 阿部謹也・川田順造・二宮宏之編集同人, 日本エディタースクール出版部, 1988, pp. 175-213.
2. *Le Bonapartisme rural en Champagne (Aube, Marne, Haute-Marne) : une étude d'une culture politique de la paysannerie, 1815-1879*, Mémoire de D.E.A., Université de Paris-I, 1990, 75 p.
3. 「フランス第二帝政下における村の「国民祭典」——シャンパーニュ地方の事例——」(1993年度歴史学研究会大会報告記)『歴史学研究』651号, 歴史学研究会, 1993, pp. 155-165.
4. 「「国民祭典」と農村世界の政治文化——第二帝政下のシャンパーニュ地方——」『思想』836号, 岩波書店, 1994, pp. 45-71.
5. 「フランス近代農村史研究家らの若干の考察」二宮宏之編『結びあうかたち——ソシアビリテ論の射程』山川出版社, 1995, pp. 185-194.
6. 「〈暴力と文明化〉の文化＝政治史——アラン・コルバンの所論を追って——」『ふらんぼー』22号, 東京外国語大学フランス語学科フランス研究会, 1996, pp. 79-96.
7. 「1851年蜂起と農村民衆の「政治化」——バス＝プロヴァンス地方ヴァール県の事例を中心に——」平成8年度東京外国語大学教育研究学内特別経費によるプロジェクト「近代ヨーロッパにおける啓蒙主義・国民国家・地方——国民国家の再検討」研究成果報告集, 1997, pp. 3-57.
8. 「祝祭と「国民化」——19世紀末フランス第三共和政下の共和主義祭典——」『思想』884号, 岩波書店, 1998, pp. 28-51.
9. 「国民国家と「伝統」の創出——1870-1914年、フランスの事例から——」樺山紘一ほか編、福井憲彦ほか著『岩波講座世界歴史第18巻 工業化と国民形成』岩波書店, 1998, pp. 187-216.
10. 「記憶の不協和音としての「共和政」——「共和政フランス」と集合的記憶——」(特集: 国際シンポジウム「記憶と歴史」)『Quadrante』2号, 東京外国語大学海外事情研究所, 2000, pp. 25-40.
11. 「「ソシアビリテ」から「集い」へ？」森村敏己・山根徹也編『集いのかたち——歴史における人間関係』

柏書房, 2004, pp. 299-313.

12. 「記録なき個人の歴史を書く——アラン・コルバンの試みが意味するもの——」二宮宏之ほか編『歴史を問う 4 歴史はいかに書かれるか』岩波書店, 2004, pp. 87-121.
13. (追悼論考)「二宮史学にとってのフランス現代歴史学」『ふらんぼー』32・33号(合併号), 東京外国語大学フランス語研究室フランス研究会, 2007, pp. 23-49.
14. 「1851年蜂起と農村民衆の「政治」——バス＝プロヴァンス地方ヴァール県の事例を中心に——」『Quadrante』10号, 東京外国語大学海外事情研究所, 2008, pp. 255-303.
15. 「市民社会と「暴力的」農民——19世紀フランスにおける「農民市民」の誕生」立石博高・篠原琢編『国民国家と市民——包摂と排除の諸相』山川出版社, 2009, pp. 116-149.
16. 「19世紀フランス農村世界における噂のダイナミクス」『Quadrante』14号, 東京外国語大学海外事情研究所, 2012, pp. 59-79.
17. 「噂と政治的想像界——ルイ 18 世治下におけるナポレオンに関する噂: シャンパーニュ地方オーブ県を中心に——」『Quadrante』15号, 東京外国語大学海外事情研究所, 2013, pp. 135-152.

IV. 学界動向、書評、エッセイ、辞典類

1. 「「新しい歴史学」の眼差し——モーリス・アギュロンの仕事——」『基礎フランス語』第12号, 三修社, 1987, pp. 54-56.
2. (辞典)『小学館ロベール仏和大辞典』(フランス近代史関係の諸項目を担当), 小学館, 1988.
3. (書評 新刊紹介)「アラン・コルバン著、山田登世子・鹿島茂訳『においの歴史——嗅覚と社会的想像力』新評論, 1988・12刊, A5, 390頁」『史学雑誌』第98編第10号, 史学会, 1989, pp. 111-112.
4. (動向紹介)「ソルボンヌにおけるアラン・コルバンのセミナー」『日仏歴史学会会報』No. 6, 1990, pp. 10-12.
5. (討論) (アラン・コルバン、二宮宏之、福井憲彦と)「感性と表象の歴史学へ向けて——アラン・コルバン氏に聞く——」福井憲彦訳『季刊 iichiko』No. 28, 日本ベリエールアートセンター, 1993, pp. 89-111.
6. (書評)「喜安朗『夢と反乱のフォブール——1848年パリの民衆運動』」『週刊読書人』第2046号, 1994.
7. (事典)『世界民族問題事典』(14項目の執筆担当), 平凡社, 1995.
8. 「世界史の鍵②ソシアビリテの歴史学」『AERA Mook 10 歴史学がわかる。』朝日新聞社, 1995, pp. 135-139.
9. (事典)『歴史学事典 5 歴史家とその作品』(6項目を執筆担当), 弘文堂, 1997.
10. (学界動向)「回顧と展望: 1997年の歴史学界: ヨーロッパ 近代——フランス」『史学雑誌』第107編第5号, 史学会, 1998, pp. 354-363.
11. (事典)『角川世界史事典』(20項目の執筆担当), 角川書店, 2001.
12. (学会通信)「ピエール・ノラ氏の来日」『日仏歴史学会会報』No. 19, 2003, pp. 9-15. (執筆担当部分 pp. 12-14.)
13. (事典)『世界史小辞典』(7項目を執筆担当), 山川出版社, 2004.
14. (討論) 自由討論 (鈴木茂、孫歌、ピエール・ノラ、成田龍一、イ・ヨンスク、岩崎稔、西永良成と) (特集1:『記憶の場』の問いから——想起すること／忘却すること／叙述すること——)『Quadrante』6号, 東京外国語大学海外事情研究所, 2004, pp. 35-58.
15. (インタビュー)「二宮宏之先生を語る」(特集I: 歴史家二宮宏之の思想と仕事)『Quadrante』9号, 東京外国語大学海外事情研究所, 2007, pp. 79-92.
16. 「はじめに」(企画I: シンポジウム報告「歴史からの問い／歴史への問い 二宮宏之と歴史学」)『Quadrante』15号, 東京外国語大学海外事情研究所, 2013, pp. 9-10.

10 工藤光一先生 研究業績

V. その他

1. 「フランス第二帝政下における村の皇帝祭——シャンパーニュ地方農村住民の『8月15日』——」（第90回史学会大会報告記事）『史学雑誌』第101編第12号，史学会，1992，pp. 110-111.
2. 「『国民化の企図』と『長期的持続』——19世紀シャンパーニュ地方農村における『国民祭典』の事例研究から——」平成10年度～平成12年度科学研究費補助金（基盤研究(A)(2)）研究成果報告書『ヨーロッパの基層文化の研究——フランスを中心に』二宮宏之研究代表，2001，pp. 30-34.
3. 「『記憶の場』と現代フランスの歴史叙述」（特集1：『記憶の場』の問いから——想起すること／忘却すること／叙述すること——）『Quadrante』6号，東京外国語大学海外事情研究所，2004，pp. 17-21.
4. 「現代歴史学と〈他者〉への想像力」『西洋史研究』新輯33号，西洋史研究会，2004，pp. 167-177.（2003年度西洋史研究会大会共通論題報告の「論点開示」として所収）

VI. 翻訳

1. （二宮宏之と共訳）ジャン＝クロード・ペロー「18世紀における社会関係と都市」二宮宏之・樺山紘一・福井憲彦編『叢書歴史を拓く—アナール論文選4 都市空間の解剖』新評論，1985，pp. 111-154.
2. アラン・コルバン「19世紀フランス農村における暴力」『思想』836号，岩波書店，1994，pp. 18-44.
3. アラン・コルバン「パリと地方」ピエール・ノラ編（谷川稔監訳）『記憶の場—フランス国民意識の文化—社会史1・対立』岩波書店，2002，pp. 341-391.
4. ピエール・ノラ「コメモラシオンの時代」ピエール・ノラ編（谷川稔監訳）『記憶の場—フランス国民意識の文化—社会史3・模索』岩波書店，2003，pp. 427-474.
5. （翻訳・解説）「97 復古王政の統治原理（1814-30年）憲章（1814年6月4日）」歴史学研究会編『世界史史料第6巻 ヨーロッパ近代社会の形成から帝国主義へ 18・19世紀』岩波書店，2007，pp. 155-157.
6. （翻訳・解説）「98 七月革命（1830年）パリ住民へのパリ市委員会の宣言（1830年7月31日）」歴史学研究会編『世界史史料第6巻 ヨーロッパ近代社会の形成から帝国主義へ 18・19世紀』岩波書店，2007，pp. 157-159.
7. （翻訳・解説）「99 労働の規律化と労働者の抵抗—聖月曜日（19世紀中葉）ドニ・プロ『崇高なる者』（1870年初版）」歴史学研究会編『世界史史料第6巻 ヨーロッパ近代社会の形成から帝国主義へ 18・19世紀』岩波書店，2007，pp. 159-160.
8. （翻訳・解説）「100 社会主義思想の形成（19世紀前半）ピエール・ルルー「個人主義と社会主義について」（1834年刊）」歴史学研究会編『世界史史料第6巻 ヨーロッパ近代社会の形成から帝国主義へ 18・19世紀』岩波書店，2007，pp. 160-162.
9. （翻訳・解説）「101 二月革命（1848年）フランス人民への臨時政府の宣言（1848年2月24日）」歴史学研究会編『世界史史料第6巻 ヨーロッパ近代社会の形成から帝国主義へ 18・19世紀』岩波書店，2007，pp. 162-164.
10. （翻訳・解説）「102 フランスにおける最初の普通選挙（1848年）トクヴィル『回想録』（1893年初版）」歴史学研究会編『世界史史料第6巻 ヨーロッパ近代社会の形成から帝国主義へ 18・19世紀』岩波書店，2007，pp. 164-165.
11. （翻訳・解説）「103 フランス第二共和政憲法の政治原理（1848-51年）フランス第二共和政憲法（1848年11月4日）」歴史学研究会編『世界史史料第6巻 ヨーロッパ近代社会の形成から帝国主義へ 18・19世紀』岩波書店，2007，pp. 165-167.

12. (翻訳・解説)「104 フランスの六月蜂起 (1848 年) マルクス『フランスにおける階級闘争』(1850 年)」歴史学研究会編『世界史史料第 6 巻 ヨーロッパ近代社会の形成から帝国主義へ 18・19 世紀』岩波書店, 2007, pp. 167-169.
13. (翻訳・解説)「119 ルイ・ナポレオンの政治思想 (19 世紀前半) ルイ・ナポレオン『ナポレオンの諸理念について』(1839 年刊)」歴史学研究会編『世界史史料第 6 巻 ヨーロッパ近代社会の形成から帝国主義へ 18・19 世紀』岩波書店, 2007, pp. 191-192.
14. (翻訳・解説)「120 ルイ・ナポレオンと帝政 (1852 年) ルイ・ナポレオンのボルドー演説 (1852 年 10 月 9 日)」歴史学研究会編『世界史史料第 6 巻 ヨーロッパ近代社会の形成から帝国主義へ 18・19 世紀』岩波書店, 2007, pp. 192-194.
15. 二宮宏之「歴史学におけるソシアビリテ」(原題: Sociability in History) 福井憲彦・林田伸一・工藤光一編『二宮宏之著作集 3 ソシアビリテと権力の社会史』岩波書店, 2011, pp. 111-123.

VII. 学会発表、シンポジウム報告など

1. 「1851 年 12 月蜂起の構造——南仏ヴァール県の事例を中心に——」日本西洋史学会第 37 回大会 (熊本大学), 1987.
2. 「フランス第二帝政下における村の「皇帝祭」——シャンパーニュ地方農村住民の 8 月 15 日——」史学会第 90 回大会 (東京大学), 1992.
3. 「フランス第二帝政下における村の「国民祭典」——シャンパーニュ地方の事例——」歴史学研究会 1993 年度大会 (駒澤大学), 1993.
4. 「19 世紀フランスにおける「暴力」と「文明化」」歴史学研究会総合部会例会 [テーマ「文明化と暴力」] (東京大学史料編纂所), 1994.
5. 「祝祭と「国民化」——フランス第三共和政下の共和主義祭典 (1880-1914) ——」日本西洋史学会第 47 回大会 (北海道大学) シンポジウム「国民になること、国民にすること」, 1997.
6. 「「近代の文法」と「長期的持続」——19 世紀フランスの農村世界における「国民祭典」をめぐって——」関西フランス史研究会第 25 回大会公開講演 (関西日仏学館), 1999.
7. 「記憶の不協和音としての「共和政」——「共和政フランス」と集合的記憶——」東京外国語大学海外事情研究所主催国際シンポジウム「記憶と歴史」(東京外国語大学), 2000.
8. (趣旨説明)「ピエール・ノラ編『記憶の場』をどう読むか——日本語版の投げかけるもの——」東京外国語大学海外事情研究所主催国際シンポジウム「ピエール・ノラ編『記憶の場』をどう読むか——日本語版の投げかけるもの——」(東京外国語大学), 2002.
9. 「記録なき個人の歴史を書く——アラン・コルバンの試みが意味するもの」関西フランス史研究会第 123 回例会 (京大会館), 2003.
10. 「『記憶の場』と現代フランスの歴史叙述」東京外国語大学海外事情研究所主催国際シンポジウム「〈記憶の場〉の問いから——想起すること／忘却すること／叙述すること——」(東京外国語大学), 2003.
11. 「現代歴史学と〈他者〉への想像力」2003 年度西洋史研究会大会 (青山学院大学) 共通論題報告 (シンポジウム)「「歴史家のしごと」の現在——小田中直樹著『歴史学のアポリア』をもとに」, 2003.